

EXtra, EXpert and EXtreme
EXPRESS

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

新型R1 デビュー2戦目でポールポジションを獲得、中須賀克行

アクシデントを乗り越え中須賀克行がP.P.を獲得! 決勝を見据える渡辺一樹が初優勝を狙う!!

今年もシリーズ第2戦は大分県・オートポリスでの開催となった。開幕戦鈴鹿2&4レースが前週にあったため、JSB1000クラスは、2週連続。J-GP2クラス、J-GP3クラス、ST600クラスは、今回が2015年シーズンの開幕戦となる。金曜、土曜と好天に恵まれ、絶好のコンディションの中、各ライダーはマシンをセットアップし、公式予選を迎えていた。

しかし、JSB1000クラスの公式予選は波乱の展開となった。ノックアウト方式で行われ、まずは全車が出走するQ1が行われたが、セッションが始まって15分が経過したところにアクシデントが発生してしまう。コースインした直後にトラブルが発生したマシンが1コーナーへのブレーキングポイント辺りにオイルを出してしまう。そこに高橋巧が現れるとオイルに乗ってしまいバランスを崩しコースアウト。グラベルにハイスピードで入ってしまうが、何とか転倒は回避している。しかし、その直後に来た中須賀克行と津田拓也という、開幕戦の優勝・2位のライダーがオイルの餌食となってしまうクラッシュ! マシンが舞い、あわやという場面だったが、2人に大きなケガはなかったのが不幸中の幸いだった。

このアクシデントとオイル処理のために赤旗が提示されセッションは中断される。中須賀と津田は、ピットに戻るがマシンにダメージを受けてしまったため再スタートできない。ただ、転倒する前に出していたタイムで中須賀はトップ、津田は5番手でTOP10トライアルに進出。TOP10トライアルにはスペアマシンで出走した。中須賀は、スペアマシンのセットをメイ

ンマシンと同じセットにして臨み、ただ一人1分47秒台をマーク。コースレコードの更新はならなかったが逆境をはね返しポールポジションを獲得した。

「思いがけないアクシデントでした。イエローフラッグが出ていたので気をつけようと思った瞬間、転倒していました。オイルフラッグも出ていませんでしたし、もっと安全にレースができるように努力していただきたいと思います。ポールポジションを獲得したことはうれしいですが、アクシデントの影響でQ1はほとんど走れませんでしたし、ニューR1は、まだまだセッティングがまともでないでセットアップを進めたかったですね。鈴鹿で津田選手にコースレコードを更新されてしまったので、今回はボクがレコードを更新しなかったのが悔しいですね。ただ大事なのは決勝ですし、地元九州オートポリスで、まず今季1勝目を挙げたいと思っています」と中須賀。フルモデルチェンジされたヤマハYZF-R1を、まだまだまとめきれないと言うが、その状態でもポールポジションを獲得できるほどポテンシャルは高い。さらにマシンが仕上がってくれば、他を寄せ付けない速さを見せるかもしれない。

2番手にはコースレコードホルダーの渡辺一樹がつけた。渡辺は、100%のアタックをせずに、Q1、Q2を目一杯使ってマシンのセットアップに集中したと言う。

「予選は、ポジションを気にせず淡々とマシンセットをしていました。中須賀選手が、どれくらいペースで走るかわかりませんが、とにかくついていって勝負できるようにしたいですね」と渡辺。

昨年、このレースで優勝を飾っている高橋は、自己ベストを更新し3番手につけた。

「マシンの状態は金曜日よりは、よくなりましたが、まだ課題が残っていますね。48秒台アベレージは、だいぶ厳しいですね」とコメント。マシンの問題をライディングでカバーしてレースに臨むことになりそうだ。

そしてニューR1を得て今回こそトップ争いに加わりたい野左根航汰が自己ベストを大幅に更新し4番手につけた。

「マシンの状態は鈴鹿のときよりよくなっていますし、今回こそスタートを決めてトップグループについていきたいですね。何周もつかかりませんけれど、タイヤマネジメントを考えながら走ることができれば結果もついてくると思います」と自信のコメントだ。オートポリスを得意としている山口辰也もベース次第ではトップグループに加わってくるだろう。

一方、開幕戦のウイナー津田拓也は、Q1のアクシデントで全身を強く打っており、痛む身体にムチを打ってQ2に出走。6番手タイムをマークするが、ピットに戻ると歩くこともできない状態だったと言う。柳川明も金曜日に転倒した影響で身体が思うように動かず18番手に沈んでいる。2人とも決勝日朝にメディカルチェックを受け走ることを決めることになりそうだ。

19周で争われる決勝レース。トップ争いは、中須賀、渡辺、高橋の3人に、セカンドロウの野左根、山口、津田が、どこまでついていけるかだろう。それぞれ万全の状態ではないだけに波乱が待っているのか!?

予選4番手／野左根航太



POLE POSITION INTERVIEW



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

ポールポジション：1'47.810
#1 中須賀 克行
YAMAHA FACTORY RACING TEAM

『金曜日に、まずまずのタイムが出ていましたし、できればレコードタイムを更新したかったのですが、Q1でアクシデントが発生してしまいメインマシンが使えなくなってしまったのが痛かったですね。スペアマシンでQ2に臨み、ポールポジション獲得と結果はよかったです。開幕戦鈴鹿でボクが持っていたレコードを津田選手に更新されてしまっていましたし、今回はレコードを出して自分の名前を刻みかけたので悔しいですね。Q1では45分を使ってマシンをセットすることができなかったため、決勝日朝のウォームアップ走行で、しっかり戦えるようにしたいと思っています』



予選6番手／津田拓也

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

真崎一輝、全日本デビューレースで初ポール!! 「ファンのイメージに残るような走りをしたい!」



ポールポジション：1'57.144
#39 真崎 一輝
Team RSC

『このコースは地元で結構走っているから得意です。金曜日はトップタイムでしたが、予選ではみんなもタイムを上げてくるから、それほど簡単ではないとは思っていました。自信はありましたが、デビューレースでポールポジションが取れてとてもうれしいです。アジアタレントカップだけでなく、全日本選手権でも結果を残したいと思い、今年参戦を決めました。決めた以上は、決勝レースでもイケると思ったら、勝ちを狙っていきたくと思います。皆さんの記憶に残るレースをしますので、応援よろしくお願いします!』

J-GP3の今季開幕レースとなるオートポリス大会。快晴のレース日和となった。J-GP3クラスの予選は、金曜日のART走行でいきなりトップタイムをマークした、ルーキーの真崎一輝が1分58秒057で真先にモニターのトップに立つ。その真崎を國峰琢磨が57秒662で逆転、真崎も57秒751まで上げてセッション前半を終了。3番手には古市右京が58秒141で付けていた。

セッションの終盤も真崎と國峰のティーンエイジャーによるポールポジションの争いは激しくなる。國峰が57秒201までタイムアップすると、真崎も57秒6、57秒4、57秒3とコンマ1秒ずつ周回ごとにタイムを削っていく。そして、最終ラップ、57秒144をマークして逆転で全日本初レースで初ポールポジションを獲得した。2番手は國峰、3番手は

は57秒800で栗原佳祐、57秒886で関野海斗とユースカップの登録ライダー、そしてベテラン勢の古市、徳留真紀が続いた。



J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

高橋裕紀が2年連続開幕戦でポールポジション! 「今年もスタートから全力全開です!」



ポールポジション : 1'52.075
#1 高橋裕紀
MORIWAKI RACING

『今年マシン開発に加えて、サスペンションメーカーも変わって開発も担当することになりましたから、開幕戦でのポールポジションは素直にうれしいです。昨年出した記録タイム(1分51秒572)に届かなかったのは残念ですが、決勝レースでは欲張らずに、自分の走りをします。もちろん、昨年に引き続き、今年も作戦は何もありません。スタートから全力全開でイクだけです!』

J-GP2クラスの公式予選は、25分遅れて始まった。序盤から高橋裕紀が52秒491でトップに立ち、生形秀之、岩田悟が53秒台、関口太郎、日浦大治朗が続く。中盤にかけて各ライダーが少しずつタイムアップ。生形も52秒913まで上げてくる。後半、高橋が52秒244に上げると、チームを一新した関口がそれまでの53秒中盤から52秒854までタイムを更新し、2番手に浮上した。

セッション終盤、各ライダーとも最後のアタックを行い、生形が52秒758までアップし、関口も52秒605まで更新するという激しい2番手争いも見られた。しかし、高橋のトップは揺るがず、最終ラップに52秒177までタイムを更新した高橋が、この大

会、昨年に引き続きポールポジションを獲得した。2番手は関口、生形とこままでが52秒台、4番手には日浦、岩田、岩崎哲朗と続く。



MOTUL SUPERBIKE
EX..EXPRESS..

ALL JAPAN RR
CHAMPIONSHIP



2015 MFJ SUPERBIKE
EX..EXPRESS..

ST600 Supported by BRIDGESTONE

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW



大崎誠之、ワンチャンスでポールポジション!! 「BSタイヤで負けるわけにはいかないでしょ!」



ポールポジション : 1'54.248
#3 大崎誠之
伊藤レーシングGMDスズカ

『今年変わったレギュレーション(予選~決勝までタイヤは1セットのみ)を見て、予選での周回を計算すれば、結局アタックは1周しかできないと考え、クリアラップが取れるタイミングを見計らっていました。みんな同じだったと思います。ボクの場合は、それで2列目になっても、決勝で挽回できる自信もありましたから。でも、経験の少ない若手にとっては厳しい規則かもしれませんね。地元と言いながら、ここで勝ったのは2002年のGP250時代ですから、何とんでも勝ちたいです。BSタイヤ開発を担当する身としては、負ける訳にはいかないですね!』

ブリヂストンのワンメイクタイヤ制の導入が注目されるST600クラスの予選。予選~決勝までに使用できるタイヤは1セットだけに、どのタイミングでどのライダーがアタックするのか、興味深いセッションとなった。セッション序盤は地元のTeam RSC田尻克行が1分55秒114でトップをキープ。しかし、中盤にYamaha Thailand Racing Teamの3人、横江竜司、チャランボン・ボラマイ、デチャクサイサーが2~4位へと揃って浮上。横江はさらに1分55秒038まで上げてトップに立つ。

しかし、金曜日のART走行でも54秒台のトップタイムをマークしていた大崎誠之が、セッションの終盤近くにそれを上回る54秒248で一気にトップを奪って、そのままポールポジションを獲得した。しかも、コースインした次のワンラップでマークし、そ

の次の周回を終えてピットに戻るというものだ。2番手は横江、3番手に田尻と続き、4番手には残り数分でタイムアップした近藤湧也が55秒295、チャランボン、そして16才の榎戸育寛が55秒439をマークして6番手となった。



MFJ Superbike Round2 SUPERBIKE RACE in KYUSHU 25 - 26 April 2015

公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走27台
●決勝スタート/13:35(19周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	YAMAHA FACTORY RACING TEAM	YZF-R1	1'47.810
2	26	渡辺 一樹	TeamGREEN	ZX-10R	1'48.170
3	634	高橋 巧	MuSASHI RT/ハルクプロ	CBR1000RR	1'48.240
4	8	野左根 航汰	YAMALUBE RACING TEAM	YZF-R1	1'48.570
5	104	山口 辰也	TOHORacingwithMORIWAKI	CBR1000RR	1'48.645
6	12	津田 拓也	ヨシムラスズキシェルアドバンス	GSX-R1000L5	1'48.827
7	73	浦本 修充	MuSASHI RT/ハルクプロ	CBR1000RR	1'49.151
8	85	中冨 伸一	HITMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R1	1'49.195
9	15	Josh Hook	F.C.C.TSR Honda	CBR1000RR	1'49.677
10	90	秋吉 耕佑	au&テレルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'51.685
**** 以上 Q2 TOP10チャレンジにて決定 ****					
11	32	今野 由寛	Moto Map SUPPLY	GSX-R1000L5	1'50.884
12	53	渡辺 一馬	au&テレルル・Kohara RT	CBR1000RR	1'51.076
13	135	寺本 幸司	Team Tras 135HP	S1000RR	1'51.567
14	39	酒井 大作	CONFIA Flex Motorrad39	S1000RR	1'51.579
15	11	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'51.635
16	18	出口 修	TRICK STAR Racing	ZX-10R	1'51.982
17	13	須貝 義行	チームスガイレースジャパン	1098R	1'52.146
18	87	柳川 明	TeamGREEN	ZX-10R	1'52.300
19	14	小島 一浩	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	1'52.312
20	41	伊藤 勇樹	41Planning.Globalcommunication	YZF-R1	1'52.611
21	136	児玉 勇太	Team Tras 135HP	S1000RR	1'53.070
22	82	原田 武人	グリーンクラブ能塚	ZX-10R	1'53.597
23	25	武石 伸也	CONFIA Flex Motorrad39	S1000RR	1'53.666
24	21	北折 淳	honda緑陽会熊本レーシング	CBR1000RR	1'55.029
25	36	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	1'55.447
26	54	中津原 尚宏	オートテックニクススポーツPGR	CBR1000RR	1'55.736
27	45	森 健祐	HondaブルーヘルメットMSC熊本	CBR1000RR	1'55.948

**** 以上Q1予選通過基準タイム(1'59.398 - 110%) ****

Entry :27 Start :27
Q1:StartTime:12:50'00 FinishTime:13:59'09
Q2:StartTime:14:10'00 FinishTime:14:25'00



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走27台
●決勝スタート/11:15(15周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	3	大崎 誠之	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'54.248
2	6	横江 竜司	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'55.038
3	54	田尻 克行	Team RSC	CBR600RR	1'55.114
4	9	近藤 湧也	GBSレーシング YAMAHA	YZF-R6	1'55.295
5	65	Chalermpol POLAMAI	Yamaha Thailand RacingTeam	YZF-R6	1'55.345
6	38	榎戸 育寛	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'55.439
7	7	稲垣 誠	AKENOSPEED-MIC	YZF-R6	1'55.470
8	14	前田 恵助	伊藤レーシングGMDスズカ	YZF-R6	1'55.591
9	46	Decha KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	1'55.593
10	26	西山 尚吾	RSGレーシング	CBR600RR	1'55.658
11	45	岩戸 亮介	Team_武 RSC	CBR600RR	1'55.712
12	39	大久保 光	Y!mobile&Kohara RT	CBR600RR	1'56.101
13	105	徳留 和樹	P box with BIKE RT	CBR600RR	1'56.330
14	70	清末 尚樹	豊後なしかレーシング倶楽部	ZX-6R	1'56.471
15	15	中山 真太郎	TEAMしんたろうwithKRT	CBR600RR	1'56.642
16	77	井上 拓海	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR600RR	1'57.150
17	59	荒瀬 貴	チーム IZUMI	ZX-6R	1'57.597
18	71	野々山 祐也	RT/バリバリ伝説withHONEYBEE	CBR600RR	1'57.675
19	12	津田 一磨	MotoMap WestPower	GSX-R600	1'57.802
20	82	名越 哲平	MuSASHI RT Jr.	CBR600RR	1'58.064
21	75	岡本 雄一郎	RSGレーシング	CBR600RR	1'58.409
22	73	水澤 美汰郎	MuSASHI RT Jr.	CBR600RR	1'58.878
23	78	大山 翼	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR600RR	1'58.926
24	51	宗和 孝宏	51ガレージチームイウキ	YZF-R6	1'58.979
25	37	蒲谷 朋大	チームスガイレースジャパン	ZX-6R	1'59.425
26	72	今村 洋介	チーム IZUMI&Nothing	ZX-6R	2'04.873

**** 以上予選通過基準タイム(2'05.672 - 110%) ****

16 奥野 翼 AKENO SPEED YZF-R6 計測出来ず
40 伊藤 和輝 Y!mobile&Kohara RT CBR600RR 出走せず

Entry :28 Start :27
StartTime:10:40'00 FinishTime:11:15'00



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走21台
●決勝スタート/14:50(17周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	高橋 裕紀	MORIWAKI RACING	MD600	1'52.075
2	44	関口 太郎	MISTRESA with HARC-PRO	HP6	1'52.605
3	2	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	GSX-R MFD6	1'52.758
4	35	日浦 大治朗	MORIWAKI RACING	MD600	1'53.145
5	10	岩田 悟	NTST.ProProject	NH6	1'53.153
6	70	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'53.532
7	18	瀨美 心	au&テレルル・Kohara RT	TSR2	1'54.092
8	392	長尾 健吾	ミクニ テリーアンドカー	GSXR600	1'54.288
9	75	作本 輝介	Team_武 RSC	CBR600RR	1'54.305
10	9	大木 崇行	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'54.337
11	81	上和田 拓海	ウエビックチームノリックヤマハ	YZW-N6	1'54.503
12	46	星野 知也	SYNCEDEG 4413 Racing	HP6	1'54.504
13	15	佐藤 太紀	TEAM PLUSONE	TSR2	1'54.550
14	11	井筒 仁康	WILL-RAISE RACING RS-ITOH	ZX-6R	1'55.203
15	36	亀井 豊	NTST.ProProject	NH6	1'55.246
16	16	中村 駿	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	1'56.421
17	71	山元 聖	Team KAGAYAMA	GSX-proto71	1'56.879
18	95	石塚 健	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	1'57.923
19	33	中尾 健治	R&Tサークル・YSP宇都	YZF-R6	1'58.742
20	29	赤間 清	MISTRESA with HARC-PRO	HP6	1'59.357
21	79	朝比奈 正	アサヒナレーシング	Z600	1'59.527

**** 以上予選通過基準タイム(2'03.282 - 110%) ****

Entry :21 Start :21
StartTime:14:45'00 FinishTime:15:25'00



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走29台
●決勝スタート/10:10(15周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	39	Y	真崎 一輝	Team RSC	NSF250R	1'57.144
2	55	Y	國峰 琢磨	P.MU 7C HARC	NSF250R	1'57.201
3	12	Y	栗原 佳祐	MuSASHI RT Jr.	NSF250R	1'57.800
4	26	Y	関野 海斗	P.MU 7C HARC	NSF250R	1'57.886
5	10		古市 右京	KTM RACING.ASPIRATION	RC250R	1'58.141
6	4		徳留 真紀	Tome Team PLUSONE	NSF250R	1'58.435
7	28		安村 武志	犬の乳酸菌.jp/プリミティブR.T	PRCS3	1'58.466
8	410		宇井 陽一	41Planning.GlobalCommunication	TR004	1'58.950
9	31		Gerry Salim	Astra Honda Racing Team	NSF250R	1'59.029
10	11		菊池 寛幸	TEAM TEC2 & NOBBY	NSF250R	1'59.121
11	634	Y	水野 涼	MuSASHI RT/ハルクプロ	NSF250R	1'59.170
12	22		岡崎 静夏	Y!mobile&Kohara RT	NSF250R	1'59.723
13	23		高杉 奈緒子	モトバムwithヒボガタマス	NSF250R	1'59.752
14	24	Y	船田 俊希	FLEX Racing TEAM	NSF250R	1'59.762
15	20		山本 恭裕	チームライフドリーム北九州	NSF250R	1'59.767
16	17		濵田 農夫	TEAM-i-FACTORY	NSF250R	1'59.779
17	40	Y	三原 杜紫	Team NOBBY & TEC2	NSF250R	1'59.833
18	21		大内田 拓	オーテック・スズカ+RGニフ	NSF250R	1'59.940
19	45	Y	太田 虎之進	CLUB PLUSONE	NSF250R	2'00.402
20	34		岸田 慶一	FLEX Racing TEAM&MH OHARA	NSF250R	2'00.593
21	27	Y	南本 宗一郎	オーテック・スズカ+RGニフ	TSR3	2'00.616
22	30	Y	中山 愛理	TECHNICA with KUSHITANI 西宮	NSF250R	2'00.710
23	47		古澤 幸也	FLEX Racing TEAM	NSF250R	2'00.739
24	69		仲村 優佑	犬の乳酸菌.jp/プリミティブ&バトル	NSF250R	2'01.710
25	46		村井 浩志	ZAPPER Racing with YERC	NSF250R	2'02.289
26	52		大塚 浩二	ホワイトレーシング+YERC	NSF250	2'02.342
27	48	Y	布施 元紀	ENDLESS TEAM SHANTIGP3	NSF250R	2'02.349
28	41	Y	佐取 克樹	41Planning	NSF250R	2'02.778
29	99		白石 玲菜	41Planning	NSF250R	2'06.300

**** 以上予選通過基準タイム(2'08.858 - 110%) ****

Entry :29 Start :29
StartTime:9:45'00 FinishTime:10:25'00
Cls : Y=ユースカップ登録者

INFORMATION



今年も全日本ロードレース完全無料放送!!
今シーズンはレース6日後の土曜日夜7時から!

2015年シーズンも全日本ロードレース選手権シリーズ全戦を「BS12 Twelliv(トゥエルビ)」で完全無料放送。しかも、今シーズンはレース開催6日後の土曜日夜7時から放送です!
迫力のバトル、車載カメラによる映像などをお楽しみください!!

■放映スケジュール
第2戦オートポリス 5月2日(土) 19:00~19:55

ますます充実するインターネット動画!!

USTREAM コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配信!スマフォ対応です。

YouTube YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

MFJ Love CHANNEL TV収録用高画質映像を決勝レース終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>

